孔子祭

市川　浩

平成二十八年四月二十四日

神田湯島聖堂にて擧行の孔子祭（釋奠）に今年初めて參會す。小雨降る中、聖堂の門には「誰でも參會できます」の貼紙あるも、大成殿の中は關係者の席のみにて、一般者は立見とのこと、幸ひ年頃安岡學研究會とて祭事執行の斯文會との關係深く、座席を得て開式を待つ。

午前十時關係者着席完了して、神田神社神職による開式の祝詞、修祓と神式にて進行す。拜殿の扉が開き孔子坐像を目の當たりにす。なほ、大成殿から下りて大きなる孔子立像を見るは、昭和五十年臺北ライオンズクラブよりの贈呈による由、來賓の臺北駐日經濟文化代表處副代表、郭仲熙殿の御祝辭にて紹介あり。神事終りて拜殿扉再び閉ぢ、神職、伶人退きて、講經とて明治大學名譽教授田中佩刀先生の御講演あり。先生は往年安岡學研究會にて言志錄を御講義下さり、我が文語の苑の初回總會にも御出でになるも、最近は御體調芳しからずと仄聞申上げ候所、御血色もよく聲調往時に異ならず。論語の述而第七より

葉公問孔子於子路。子路不對。子曰。女奚不曰。其爲人也。發憤忘食。樂以忘憂。不知老之將至云爾

につき關聯の文獻を縱橫に涉獵して解說せらる。「發憤忘食。樂以忘憂」の句には朱子、王陽明など各說ある中、我が佐藤一齋は聖人の凡俗に異ならざるあるを說く（言志晚錄）を一入興味深く伺ふ。

最後に二松學舍大學附屬高等學校生徒による「孔子頌德の歌」の合唱に和す。この歌は昭和二年一般公募より當選の下平末藏作詩に中田章作曲にて成立なるが、歌詞四番ある中、最初の二番にて孔子を讃へ、後半の二番はその孔子の教へが我が國の美風となりて開花したるを喜ぶ寔に優れたる詩なり。本會發行の文語詩集には揭載なければ、ここに揭ぐ。

（一）泰山萬古雲に立ち　泗川千載水あせず
孔子の偉業聖德は　山河と共に盡きせじな

（二）孝弟忠信百行を　貫く道は一つにて
修身齊家萬民を　導く本は仁にあり

（三）傳へし道は敷島の　大和心をうるほして
色香も妙に咲き出でし　御國のはなぞうるはしき

（四）湯島の岡にそびえたつ　大成殿の中よりぞ
ひとの幸福世の中の　平和の光輝かん

樂譜は當初のまゝが印刷してあり、當然歌詞は歷史的假名遣なるを高校生等は何の障りもなく唱ひきりけり。

式典終りて大成殿を出づれば雨既に已みてやゝ花冷えの春にてありけり。

（平成二十八年四月二十五日受附）